



はるの年々梅

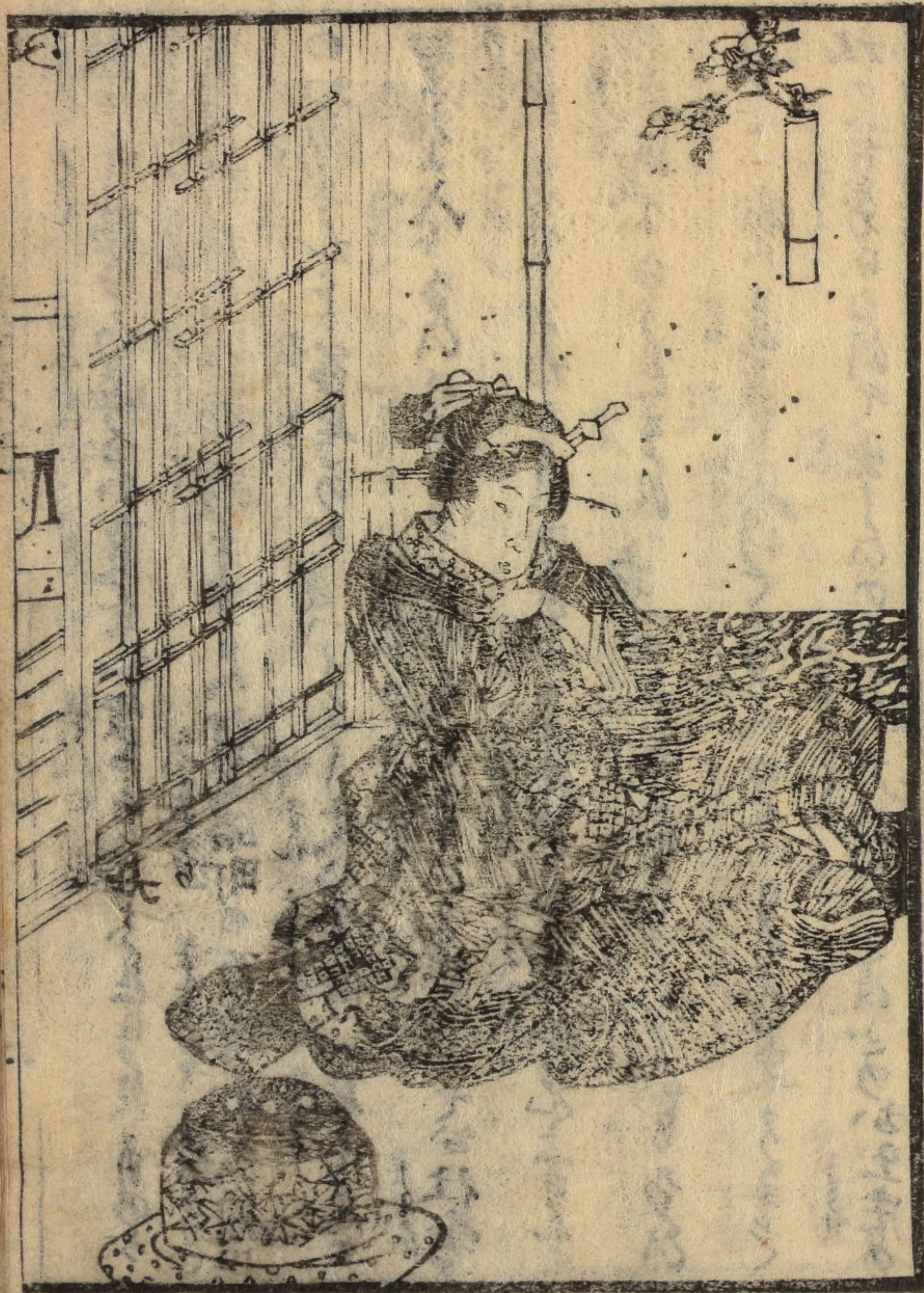
中編

13
2919
11



お帰りのやまのうらさきをいせきとてお返りトのりてお六
 胸のギツリまご邊初てわごもさく他へおれとて主人の
 情身へ入るさる衣濡る袖をひくふお六の
 こそ言ふところ殺明の多し知うとらうたのりのかま之結しき
 身へのさづからしおれうしき面目あやと頼赤くお初め
 きねみお六へ徳を道く寄せ 兼へアタおれ 兼へハイ兼へ
 りもお兄上きんと情合のあつるお付てきねよお付公の
 らぶ子おれは強さばとてお言ひけらる母人さんがお出のとて

お兄上きんとお咄しお威のさゆしおつるのもあつる明々
 おまひとりのおままおまらやアおままおままのあを同より
 おままおまら 御専を哀悲いと涙さけ家の主人おまの
 情へ依て多くのなま公人の中へおけてひらきうけらまら
 身のお世奉公人とお世間の人も思ふぬお格し不便がら且そ
 家の娘お同格し大のりおせうろくおおあわま入て旦那と
 密通もおまおまおまおまおまおまおまおまおまおまおま
 さらく相違のありもせしうと苦勞おあり涙を流しお格し



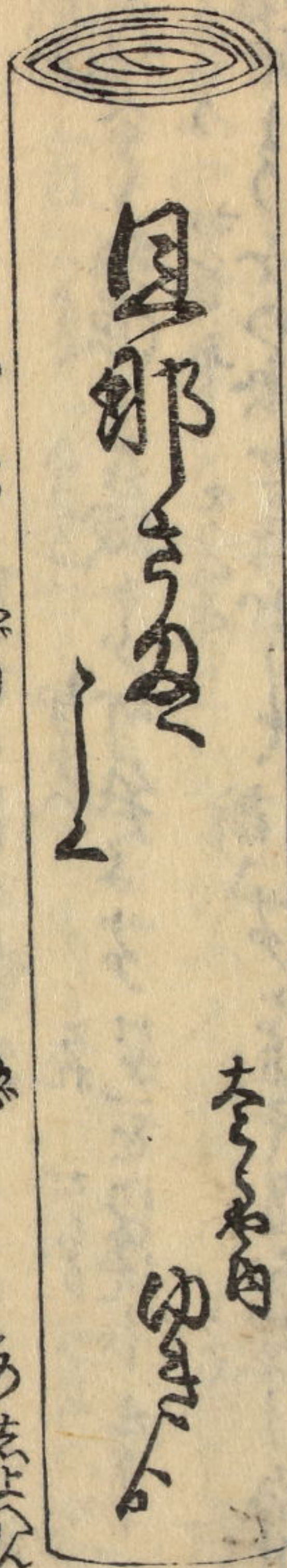
おのゝふりお園にお見上まんがき逢ふりよまアソクお
ハ格あつしつこ格でも老南のりなを度でもか格うらて
行ませんろ新格本家の世話の出来ませんろおの
店之置りて居る舎身とほ下と家督をた格てご
ま一初一生活別格は原居して居てお孫やかを格
小保養をして居る及ご方日後と格お言ひヨ
ごごかまらうそて午時舟出んハ何と格作ま
舟人きんハ笑ひまらふヨも然るそ是ハモッお孫の望まらふ

何格でもまらぶ宜がお孫ハ一生嫁小まらぶりも
うら相成る所があらうとぶお孫ハ格付らうお孫ハお孫の
氣よけつらうのあらうとぶとて格お孫がらて格成
お言ひヨお孫ハアノ午時ハ兄上まんも少一入らうお園
顔をおくして格お言ひお孫もまらうとハ
お母上まんもおのりもさそいごらう格おのり
もて格孫ハ五格孫して左格お孫のてらまひヨ
お孫とをあらうとて格お孫のを隔紙紙と聞ら子アアお兄

上さんのおまけつてころあつたかみそを何卒嫁小は度物ぐら
 親類をいせせらるの評判も面割ごうり當時のおまを
 かつのち血殿方へ心を公めでもよてまうし何ぞ里親を
 へりて表向嫁小入且振うとお言ひて 一何れりて
 私の振るものぢあなまへゆふと母はものう 罪ハ二其時
 乳母がらわうりまお兄さまんが物角の女で血殿方の後
 振ハ成に成のを然に成とて悪うりふうり則當時の通小
 内同居入ち並に成方が宜あぶおませうとまのて圓て

うらお安市ドでもひヨトお悪ハお冬のの乳を厨もまの柄せぬ
 温厚のさハ最ありごき娘よりわうり福左より餅名女
 花曉といふ風雅人るれはけ後花曉と名をあらはす
 あて讀く久途中ゆて出合ころう櫻川親孝を同乃一居足
 通うけ且たか羅あつたおまをいひ少時を出一核殺せ
 ちて次くあつたおまをけ 新孝ハトキ二旦那お頼との所言トまう
 ちか子 ちか子 然うそまのちか子 ちか子 ちか子 ちか子
 ノ新ハチおまのちか子 ちか子 ちか子 ちか子 ちか子

まうそサ 竹根をござうまうそとてお困りなすまへん
肉外小竹根まののが 又此病も再發候
まうそ

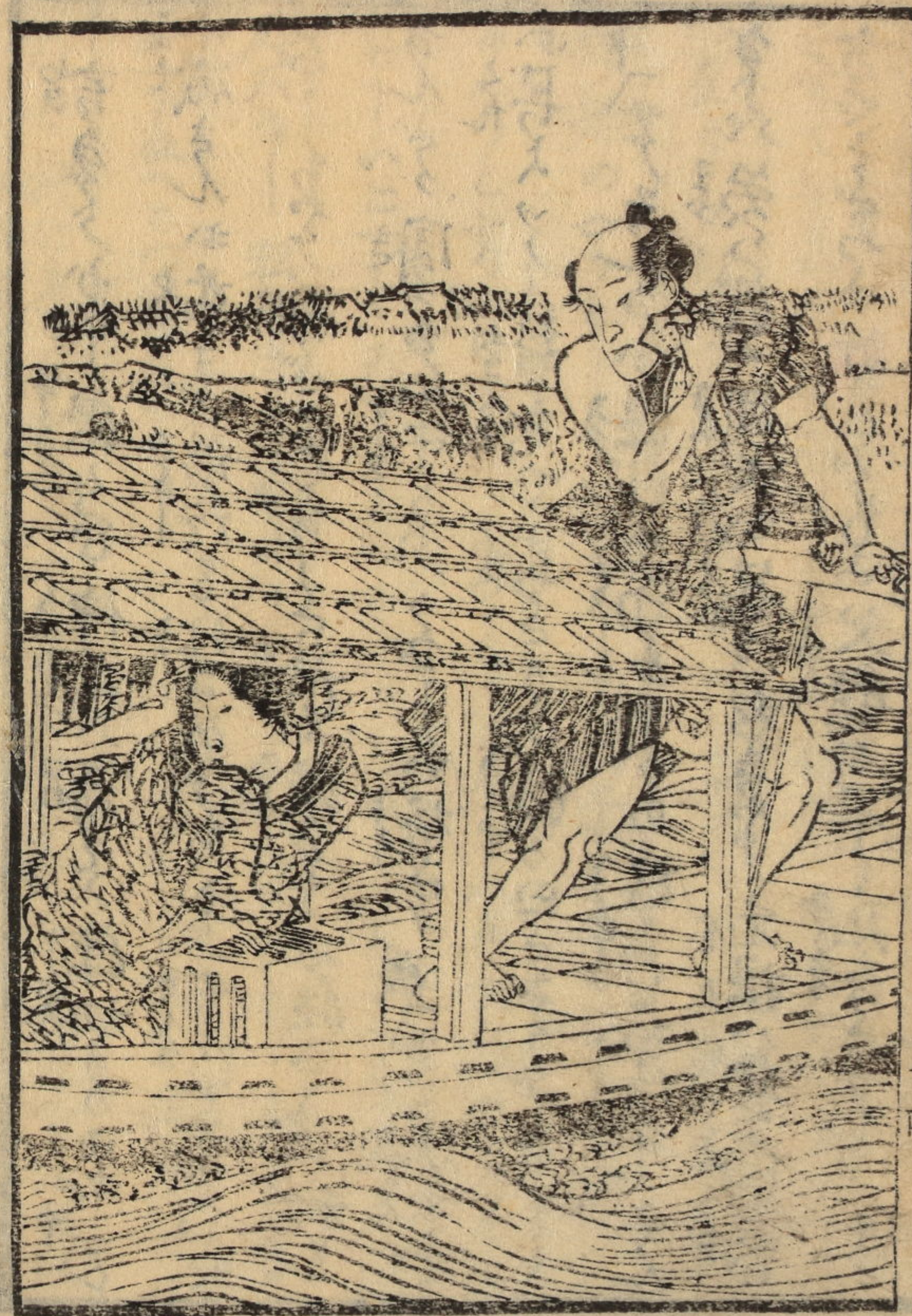
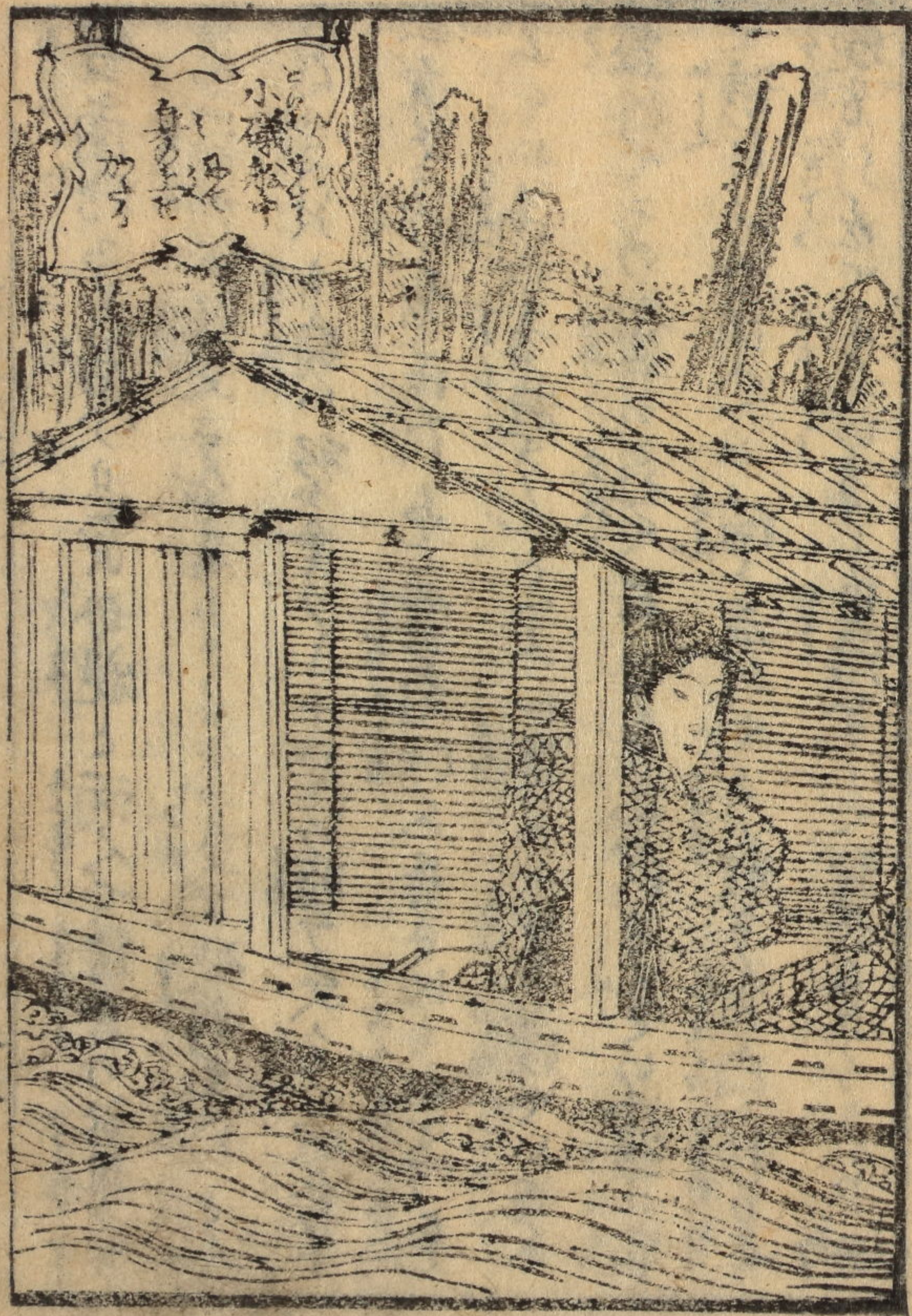


まうそく けむやが 始終のそとく長くしては 初編ハ
説續がごう まうそ右ふあまの 理言も 深き 因縁
あつて 遠の 迹ごけ 且つ 汝身の 春の 女一く ありん

まうそ 竹根の 録金の 所よりごせー 小娘の 侍る
まうそ 二條よりごせー 竹根の 侍る

第元二回

春告鳥や梅はさやふあもらねどトハ 芭蕉翁の 著る
あてごご 人情の 極まるらんを 変らふが 竹根の 侍る
まうそ 夕紫の 霞の 夜如月や 遠所も 各ふ 夜ふ 向が
目世の うまごり 白髪ふ 誰か 房の 文越てごご 関
やの あまごより 竹根の 侍る 家根 結ぶ 一筆 走と 仇



あつち
豊南のゆも居る且び母親と兩人で鎌倉の無月を
とりん地所不伯父さんが居るさるさるまじ使所を
ざんまはくも時ハおがせりく十二才の時やまろ鎌倉
二年をうり居る中たふと豊南のゆも居るは分れと
がらてお異のき終きんとりんお宮ふ七里が濱でお周
船所てそのお客の居るは濱さんとりん嬢の家
と終りておげこの縁さる所て終きんの内一松も母
親も引きて居るさるさる世話をしとお異のさるさる母

親も引きて一丈八尺ひらり小まつこのりんごうり
さんかおのめ不便がらてお宮の二味線のおを
お異の子親方もひるひやど世話をしとお異のまの
のを私々十六のまふおと一こりんさるさるさる
おや記ではおりまでるけらやア尼でもなるさる
けまどかも顔の向くまのいをはまこのと小濱さん
がまこと内澤で生活をし折江町の今の姉さんの方へ
頼んで一人おとりんもお受けまもおあへてもお

二五

二五

揺るるのらんでものまのヨ 仲ヨヤ左ねうへそしてその不
 義なることをしことお言の空を付外なるんぞ出外でも
 仕とのうへ 破五、イエト言きしておーいこもる 仲ヨヤ何と
 幸いハねハ子ハ嬢ハヨホ

春水伝曰遠回小著一う小破と言へるハ先
 内译判を並ぶらう一ま告名の拾送公録の梅と
 外題せし小冊の初冊の上の巻小牛小あり
 女を名を將のるねんとて乃誘引を頼し未破なり

その今本文小得かこまとも公録の梅も一ま破
 置ねておや見下まれとあひ一婦女子もあん
 うをいさう遠回小誌はよとと梅春告名公録の
 梅と標返一子見一とある妻細きおとを
 知しよーあらんう
 破一それ
 だものヲ 仲一イ五笑ひハ仕のヨ 初 志やんとして居て破
 居るうさア お言子 破一それる不真面を顔をして

かろけりしと備の隠のるんのとらふのどやちるのう備
 志ておぼるたるヨ仲ハマヤアヤヤよりくる海の次
 今すまをけおま活活く唯先中ハはるのけとともは
 おもるんの海切るをよてとてと面白くともるの
 ろふ海さげきんでおぼるるるるるるるるるるるる
 松もあひるたるまのけととも他人へ入るくヨ仲
 誰人ふらふのうまと言ふおろく船のあめゆ
 屋ハ引 仲ハマヤアヤヤ柳橋人着とそらとヨ

